

平成二十八年 度

四天王寺中学校入学試験問題

国 語

注意 ○ 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
○ 字数制限のある答えは句読点・記号も一字とします。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学校五年生のぼくはクラスメートの準一と数馬かずまの三人で、八幡橋はちまんばしの下に小部屋ほどの穴を見つけ、秘密基地にした。取りこわされる家にあつたほこら（神を祭った小さな神社）を見つけて秘密基地に運び入れるがそれを弟の直也に見つけられた。口止めするため、話すとバチが当たること、工事の人が大けがをしたというウソの話をした時、ほこらの方から「キーン」という音がした。その後、取りこわされる家の工事をした人が本当にけがをしたことが分かり、数馬がほしかったゲームをお願いしたところ、親せきからもらえるようになったことから、ぼくはほこらの神さまの力を信じはじめるようになった。

ぼくが念をおすと、やつと、直也はうなずいた。そこで、ぼくは、直也の顔に顔を近づけ、ひそめた声で、きつぱりといった。

「ほこらの神さまに、たのんでみるんだ。これしかない。」

ポカンと、直也が、ぼくをみた。いつてみて、ぼくも、自分の言葉がひじょうにマヌケにきこえることに気づいた。とっておきの方法が、神だのみというのは、あまりにもなさけない。

「……いや、あのほこらは、ただのほこらじゃないんだ。ほんとうに願いごとをかなえてくれる力がある……らしい。」

あわててぼくは説明した。さっきの準一からの電話のこと。数馬が手にいれたゲームボーイの一件。

ぼくが話すうちに、直也の目は、どんどん大きく、どんどんまるくなっていった。

「……すつげえ……。」

とうとう最後に、直也がうなつた。もう、すっかりほこらの神さまに心をうばわれている。

これならだいじようぶ。直也は自分もほこらの神さまに、自転車のことをたのみにいくといいだすだろう。

そして、もし、直也があしたまでに自転車に乗れるようになれば……。そのときは、信じられると、

ぼくは思った。そのときは、まちがいなく、ほこらの神の力を、神のひきおこす奇跡きせきを、ぼくは信じることができるだろう。

「でもさあ……。」

直也が首をかしげた。

「その話、なんで準一ちゃんと、数馬くんにないしよなの？」

ぼくはAした。直也には、数馬とのあいだのいざごの話はしたくない。ぼくが、ほこらの神のご利益りやくを信じない立場だと知られるのもまずい。

「それはさ……。それは、つまり、おまえは、まだあの①秘密基地の正式メンバーってわけじゃないだろ？ だから、もし、おまえがほこらの神さまに願いごとしたなんていったら、数馬たちが、ゆるしてくれないかもしれないからさ……。」

「ああ、そうかあ……。」

直也は、うれしそうにぼくをみた。

「お兄ちゃん、ありがとね。」

ぼくは良心がBいたんだ。②ぼくは、弟を実験台にして、神さまの力をためそうとしている悪い兄貴だった。

こんなこと、やつぱり、よしにしようか……と、まよっているぼくの腕うでを、直也がいきなりひっぱった。

「いこ！ はやくいこ！ はやくいって、お願いしてこないと、暗くなっちゃうよ！」

「う……うん。でもなあ……。」

ぼくはまよった。

「ねえ、はやく！」

直也の声は、せつばつまっている。こうなったら、しかたない。もう、あともどりはできなかった。吉とでるか、凶とでるか、やってみるしかない。

「よし、いこうぜ。」

とうとう、ぼくはうなずいた。

五月通りには、Xも夕暮れの気配がせまっていた。ほんとうなら、八幡橋まで、自転車で行きたいところだったが、直也といっしょだから、しょうがない。

ぼくたちは、坂道をかけおり、五月橋をわたり、家並みの中をぬけて、一気に八幡橋のたもとをめざした。

川が流れていく西の方角の家は、Y夕焼けの色に染まっている。ときおり、橋の上を通り過ぎる人の流れが、とぎれるのをまって、ぼくと直也は川沿いの石垣を、下までおりた。

流れの上を風がわたり、川つぶちの柳の木が、たれさがる枝をゆらした。

ここまで必死に走ってきた直也も、暗い橋の下をのぞいて、ちよつとためらっている。その橋の下、さらに暗い闇の中にほこらがあり、^③そのほこらの中に神さまがいるのだと思うと、ゾクゾクしてくるのはぼくも同じだった。

でも、ここまできて、ひきかえすというのは、ばかみたいだった。

「いくぞ！」

ぼくは直也に声をかけ、先に柳の幹をまたぐ。直也も、あわてて、ぼくのうしろについてきた。

ぼくたちは柳のカーテンにとざされた秘密基地の中にはいりこむと、そのうすぐらい闇の中で、こっそり顔をみあわせた。じつとみすかしてみても、ほこらをかくした穴の中はみえない。橋の根元にたまった濃い闇と、雑草が、完全にほこらの姿をかくしていた。

川の流れる音がひびく。だれかが自転車に乗って、なにかしゃべりながら橋の上を通っていく。自転車が通りすぎたあと、基地の中は、シンと静まった。

「はやく……。願いごとをいってみるよ。」

ぼくは、直也をせかした。直也は、もじもじしている。

「いってみるって。オーケーなら、神さまが返事してくれるはずだから。」

ぼくは、そういうながら、いっそ、神さまが返事をしてくれなければいいのになと思っていた。そうすれば、なにかも「残念でした。」とわらい話ですませられる。

「ほこらの神さま……。」

直也が、小さなヒソヒソ声でしゃべりはじめた。

「ほこらの神さま、おねがいです。ぼくが、あしたまでに自転車に乗れるようになりますように。あした、松本くんたちの前で、ちゃんと自転車に乗れますように……。」

ヒソヒソ声のひびきがおさまると、ふたたび基地の中はシンと静まり、川の流れる音だけが、みょうに大きくきこえてきた。

じつと耳をすましながら、ぼくは自分の心臓がドキドキしているのを感じた。直也も一心にほこらのほうをみて、耳をすましている。

^④ぼくたちはしばらく耳をすましつつづけたが、あの音はきこえなかった。

「……だめだな……。」

^⑤半分、ホツとしながら、ぼくがいった。

「ちえっ。どうして、ぼくのお願いはきいてくれないんだろ……。」

直也が、くやしそうにいった。ほこらのほうをにらむ。

「しょうがないさ。神さまっていうのは、気まぐれだから……。」

数馬の言葉を思いだして、そういつてしまってから、ぼくはCした。(ほこらの神にきこえただろうか……) ^⑥心の中でそう考えた自分がバカバカしくなって、ぼくはポンと直也のかたをたたいた。

「いこ、いこ。だめだったんだから、もう、あきらめて、帰ろうぜ。」
そういつて、ぼくが柳の木の方へひきかえしたときだった。

とつぜん、基地の中の空気がふるえた。

キーン。

「わっ！」

といつて、直也がぼくにしがみついた。ぼくの心臓もドキドキ鳴っている。

あの音だ！ あの、頭の中にひびく、不思議な音だ！

ぼくと直也は、だきあつたまま、おそろおそろ、ほこらの暗がりをつめた。

音は、やっぱり、まちがいないく、ほこらからきこえてくる。橋の根元に、黒くぬりつぶされた闇の奥から、なにかが、じつとこちらをみているようで、ぼくたちは、身動きがとれなかった。息をつめ、目をまんまるにして、固まったようにほこらのほうをみていると、不思議な音は、また、はじまったときと同じように、とつぜん、ふつつりとやんでしまった。

ほこらをつつむ闇が、じんわりと広がって、こつちにはみだしてくるような気がする。

「いくぞ！」

直也の腕をひっぱると、ぼくは、あともみずに、基地からとびだした。ころがるように、柳の木をまたぎ、やつと石垣の下に立つと、橋の上には、スミレ色の夕闇が広がっていた。

「か、神さま、返事したね。オーケーって、ことだよな？」

直也が、念をおすようにぼくにたずねる。

ぼくはまだ、ドキドキしている心臓の鼓動を感じつつ、直也にむかって、ぎこちなくうなずいた。

「……うん。そうだな。オーケーの合図、きこえたもん……。」

「やったあ！」

直也はさっきまでふるえあがっていたことも忘れたように、うれしそうにジャンプした。

神さまは、返事をした。直也の願いに、あの不思議な音で、答えてくれた。

だけど、ほんとうにそうだろうか？ あれは、ほんとうに、願いごとをききとどけたという、オーケーの合図なんだろうか……。

「ああ、腹へったなあ……。」

すっかり安心した直也が、ニコニコとわらっていった。

石垣をよじのぼり、家への道をたどりながら、ぼくは考えていた。
(あしたになったら、はつきりわかる。もし、直也がほんとうに自転車に乗れるようになってたら、神さまの力はほんものだ。)

だけど、^⑦直也がやっぱり自転車に乗れなかったら……。

(そのときは、おれが、自転車の練習、てつだってやるからな。)

^⑧ぼくはききとれないぐらいに小さな声で、直也にむかってささやいた。

問1 A C にあてはまる最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ズキと イ チクチクと ウ ギクリと エ ドクリと

問2 線①とありますが、「秘密」であるための行動を一文で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

問3 線②とありますが、「弟を実験台にして、神さまの力をためす」とは、どういうことですか。わかりやすく説明しなさい。

問4 線X、Yは夕暮れの情景を描いています。同じように夕暮れの情景を描いている部分を、十文字以内で抜き出しなさい。

問5 線③とありますが、このときの直也の気持ちの説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 神さまという未知の存在に近づくというおそれと、願いをかなえてもらえるという期待感。
イ 神さまに会えるかもしれないという期待と、願いをかなえてもらえるだろうという喜び。
ウ 神さまのすぐ近くにいるという緊張感と、願いを伝えなければならないという使命感。

エ 神さまのばちがあたるかもしれないという恐怖と、願いが実際に実現するという興奮。

問6 線④とありますが、「あの音」はどういうものだと考えられていますか。八字以内で抜き出しなさい。

問7 線⑤とありますが、
(1)「半分、ホッとし」たのは、「ぼく」がどのように思っていたからですか。解答らんにあてはまるように三十文字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

(2)「半分」とありますが、もう半分はどのような気持ちですか。解答らんにあてはまるように答えなさい。

問8 線⑥とありますが、なぜ「バカバカしい」と思ったのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア けんかをした数馬を心配する必要はないと思っていたから。
イ こんな場所でまじめに神さまの性格を説明していたから。
ウ ほこらの神さまのありもしない力をおそれていたから。

エ 実際にはきこえるはずもない悪口を気にしていたから。

問9 線⑦とありますが、こう考えた「ぼく」の気持ちが表れている動作を文中から十字で抜き出しなさい。

問10 線⑧とありますが、直也にとって「ぼく」はどのような存在ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 神さまのおかげで自分の願いが実現した弟の喜びに共感しつつ、冷静さを失わず弟が傷つかないように見守る存在。

イ 自分のおそばで神さまに願いを伝えられた弟の成長を喜びながらも、現実的な視点を失わず、弟を守ろうとする存在。

ウ 神さまに願いをかなえてもらえたと安心して弟の喜びに寄りそいつつ、さりげなく見守り手助けをする存在。

エ 勇気を出して神さまにお願いをしたことで得た弟の自信を尊重しながらも、思いやりを忘れない保護者的な存在。

二 次の文章はテレビで一九七四年に放映された『アルプスの少女ハイジ』の主人公のハイジについて述べたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

私たちの多くがハイジに持っているイメージは、どんなものでしょう。アルムの山をかけめぐる、むじやきで、明るく、元気な姿。それとも、病気で歩けず車いす生活のクララの話し相手として都会へ連れて行かれて悲しんでいる姿。いずれにせよ、ハイジのけなげさ、かわいさが強く記憶に残っているはずです。

それはまちがった印象ではありませんし、原作は、自然に憧れ、子どもの無垢さを尊ぶ、近代ロマン主義の中から生まれてきています。

近代以前のヨーロッパで、自然はさほど価値のあるものではありませんでした。開拓が難しい山や森は、神があたえた試練そのものであり、目の前にそびえる山という障害物は、地表のこぶやいぼに見えていました。田舎も飼育動物の糞尿のにおいがする不潔な地域と見なされていました。

それが正反対の価値を持つようになったのが近代です。機械化による都会の荒廃、過酷な労働などが、それとは正反対に見える。①自然や田舎へのまなざしを変えていったのです。

ハイジは、そうしたまなざしの象徴なのですが、えがき方はとてもわかりやすいものです。なんとなく、我々はハイジを自然児のように思っていますが、物語の始まりをふり返ればそれが思いこみであつたのが直ちにわかります。彼女は、おじいさんにアスけられるため、五歳の時にアルムの森にやってくるのです。そして、フランクフルトへ行くのが八歳。つまり自然の中の生活は三年間だけです。もちろん五歳までの姿はえがかれませんが、自然の中の子どもの印象が生じるのは、それこそ自然なことなのですが、実は彼女もまた自然の中へとやってきた子どもなのです。

その辺りをアニメは見えやすくなります。初めて山へやってきたハイジは、おばさんに持っているだけの衣服を全部着せられていたのですが、ヤギが放牧されている丘をかけ上がる時、暑くなって次から次へとぬいできていきます。最後は真っ白な下着姿となり、おじいさんの前に現れます。町からやってきた少女が純白になるわけです。子どもという無垢性を待った存在が、これもまた無垢性を帯びた自然の中でいつそのパワーを持つてかやぐ。

おじいさんは、村でも評判の※へんくつ。人付き合いも悪く、彼に育てられるハイジがかわいそうだと人々は心配しています。おじいさんがそんな性格になったのは、※傭兵(スイスは傭兵の国でもあり、たとえば現代でもバチカンの※衛兵はスイス人です)として出かけた戦場で心に傷を負ったからです。ハイジ危うし、いじめられるのかと思ったら、そんなことはなく、②おじいさんはたちまちハイジに魅せられてしまいます。屋根裏のほし草が自分のベッドだと知ったハイジは、はしやぎ喜び、そこにシートを広げるために、おじいさんに手伝てと云うのですが、この老人は、「ばかではなさそうだ」とつぶやきながら従順に従います。それからの彼は性格も明るく変わり始め、ハイジ命となっていくのです。

無垢+自然という近代最強のパワーを手に入れたハイジは、次にフランクフルトへ向かいます。そこに待っていたのは都会の子どもクララ。③彼女が歩けないという設定は、あまりに※露骨すぎる、自然に対する都会の象徴ではありませんけれど。ハイジは、無垢の魅力でたちまち都会の人々を魅了していきます。クララ、使用人のセバスチャン、クララの父親と祖母、クララの主治医。好きになるまで※紆余曲折があるわけではなく、

魅了されないのはただ一人。クララの父親が留守の間の家を取り仕切る執事のロッテンマイヤー夫人。彼女は、礼儀作法を始めた教養を持っている都会の知識人の象徴です。

しかし、ハイジは都会になじめず病気となりアルムへともどります。そして今度はクララ以下、ハイジに魅せられた都会人たちが次々と追いかけてきます。クララは自然の中で歩けるようになり、クララの父親はハイジの後ろだてになることを約束し、自然と無垢な子どもの大勝利で物語は閉じられます。が、よくよくふり返ると、アルムでハイジが修得できなかった字を覚えるのは、都会でのことです。自然は最高! でありつつ、④勉強という部分では子どもを野に放たずしっかりつかまえています。

子どもといっしょにテレビを見ている親にとって、なんの問題もなく、親子で日曜日の夕食時間に楽しめる世界が b テンカイしていたのですから、ありがたいかぎりです。

クララは都会からアルムにやってきました。つまり都会人クララは自然の中に c テキオウできました。しかし、ハイジは都会にテキオウできませんでした。なぜか？

ハイジは ⑤ 都会の大人が思いえがく子どもの理想型として、無垢を生きる使命を負わされた子どもだからです。彼女は都会で生きることを許されないのです。

※無垢：けがれないさま

象徴：目に見えない物事を色・音・形などに置きかえて表現したもの。

へんくつ：がんこ者。

傭兵・衛兵：兵士。

露骨：かくさず、むきだしにする様子。

紆余曲折：複雑な経過をたどること。

問1 線 a b c のカタカナを漢字に直さない。

問2 線①とありますが、「変えていった」結果どのようになったのですか。解答らんにあてはまるように、文中のことはを使って二十五字以内で答えなさい。

問3 線②とありますが、おじいさんはハイジのどのようなところに「魅せられた」のですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人を疑わなくて、自分の気持ちをすなおに表現できるところ。

イ へんくつなおじいさんに対しても優しく対応できるところ。

ウ 思いやりがあつて心の傷をおしはかることができるところ。

エ いやがらせも善意に考えることができる大らかなところ。

問4 線③とありますが、このことから都会とはどのようなものだと思いますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア だれかにたよらないと生きられないところ。

イ のびやかに生きる力をうばわれるところ。

ウ 自分にきびしくすることが難しいところ。

エ お金を持たないと不自由に感じるところ。

問5 にあてはまる最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア まるで木々が芽吹くように

イ まるで恋に落ちるように

ウ まるで神に仕えるように

エ まるで潮が満ちるように

問6 線④とはどういうことだと考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア アニメを見ることによってより良く生きるための知恵を学べること。

イ 遊びに行きたい気持ちをおさえて家で勉強させることができること。

ウ 勉強は都会ですることが有効だとアニメを見る人に分らせること。

エ 親子でアニメを見ることによって子どもと心の交流ができること。

問7 線⑤とありますが、ハイジが「都会の大人が思いえがく子どもの理想型」としてえがかれる背景にはどのような思想がありますか。二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人に出会ったときに、「この人は、生きたエネルギーに満ちている」と感じることもあるし、「この人は、どこか死んでいるな」と感じることもある。直観とか第六感と言ってもよいでしょうが、そういう判断が瞬時に出来る力を、私たちはみな持っています。

どんなにお化粧をバッチリしていても、死んでいる顔もあれば、どんなにノーメイクでも生き生きしている顔もある。それは人間について分かるだけでなく、たとえば食べ物などについても感じ取ることが出来ます。つまりは、魂が入っているものとそうでないものの、電子レンジでチンして出てくるものとだれかが心をこめて作ったものの違い。どんなに材料が同じで栄養分析で同じでも、確かに何かが違う。この判断は「心」が行う「質」的な判断であつて、「頭」が行う「量」的な判断とは違います。

そういう違いについて、「生きているもの」と「死んでいるもの」という呼び方で区別してみたいと思います。

茨木のり子さんの「生きているもの・死んでいるもの」という詩が、① この視点のヒントを私にあたえてくれました。

生きている林檎 死んでいる林檎

それをどうして区別しよう

籠を下げて 明るい店さきに立つて

生きている料理 死んでいる料理

それをどうして味わけよう

ろばたで 峠で レストランで

生きている心 死んでいる心

それをどうして聴きわけよう

はばたく気配や 深い沈黙 ひびかぬ暗さを

生きている心 死んでいる心

それをどうしてつきとめよう

二人が仲よく酔いどれで もつれて行くのを

生きている国 死んでいる国

それをどうして見破ろう

似たりよつたりの虐殺の今日から

② 生きているもの 死んでいるもの
ふたつは寄り添い 一緒に並ぶ

いつでも どこでも 姿をくらまし

このテーマを大切に感じながら日々の生活を生きていくことによって、あらゆるものについて「本物」と「偽物」、「魂のこめられたもの」と「ぞんざいに作り出されたもの」などの区別がつくようになり、そしてしだいに、この世の中のほんとうの姿が見えてくるはずだ。

生きるとはこの世でもっとも稀なことである。たいていの人間は存在しているにすぎない。

『オスカー・ワイルド全集』より

イギリスの作家オスカー・ワイルド一流の毒舌ですが、しかし、確かに電車などに乗っていて周りの人たちを見ると、まさにそんな感じがすることがあります。目が死んでいる人がたくさんいる。その死んだ「気」に囲まれているうちに、こちらでも段々苦しくなってきました。

さてそれでは、④「生きているもの」と「死んでいるもの」の違いは、一体何によるのでしょうか。今度は、ピーター・ブルックという演出家の言葉です。

……反復とは、子供のときによくやらされたような、同じ音階をくり返すピアノのレッスンである。反復とは、機械的に同じことをくり返す旅興行のミュージカルの一座で、配役が何度か変わって現在の出演者は十五代目、動きからは意味も味わいも消えてしまっているといったものだ。反復とは、伝統において無意味なもののすべての根源であり、感受性にaんだ俳優がおそれるあらゆるものである。こういうカーボン紙のコピーのようなものには生命が通っていない。反復は生の否定だ。……

ピーター・ブルック『なにもない空間』より

よく飲食店で一軒でやっていたときにはおいしかったけれど、繁盛したので二軒目、三軒目を出したらとたんに味が落ちたなんていう話がありますが、そこには、一軒でこんなにもうかつたんだからもう一軒出せば倍もうかるんじゃないかといった計算が働いてしまっている。そして必ずマニユアルというものも使われるようになってしまおう。

「生きているもの」としては、マニユアルではなくある種の即興性が大事です。それが生きの良さや鮮度を生み出すのです。講義や講演でも、あらかじめ原稿を準備してきてそれを読むだけですと、死んだ話をするようになってしまふ。聞いていてねむくなる話というのは、たいてい、立派な原稿があつてそれを一言一句アナウンサーのように読んでいるものであったり、何年も同じノートをネタにした反復であつたりするものです。それは、どんなに良い話であつても、飛んでくるもの、伝わってくるものが少ない。

中には、「即興」とはいいbカゲンなことなんじゃないかと、手ぬきなんじゃないかと考える人もあるかもしれませんが、「即興」とは最も生きているやり方なのです。十分に下準備した上で即興を大切にすることは、単なる手ぬきの行き当たりばつたりとはまったく別物です。ほんとうに咀嚼されていることであれば、原稿はむしろ自由な話のひろがりをさまたげてしまいかねない。これは、演劇でも音楽でも、美術でも料理でも言えることでしょう。クラシック音楽の演奏で、「ここはこう解釈して演奏すべき」と指導を受けて、それにしばられてしまうと、ミスはないけれどもちつとも魂にひびいてこない無味乾燥な演奏になってしまうります。これも、即興性が失われてしまったためなのです。

即興性とは、常に新しいひらめきがあり二度同じものはないということですが、※セラピーにおいても、それが生きている※セッションになるのか死んだセッションになるのかを分ける大切な要素になります。※セラピストが勉強熱心に様々な理論を仕入れても、それだけにとらわれて※クライアントに向き合うと、「頭の中で教科書をペラペラめくっているような面接」という感想を持たれるような死んだセッションになってしまいます。

そんなことにならないためには、セラピストが先入観のない状態であることが大事です。勉強したり研究したりすることはもちろん大切ですが、クライアントに向かったときには、それを一度cスって、白紙でいること。私も「この前、この人はこういうことを言っていたから、今日はこういう風にしようかな」なんていう⑤「はからい」をもつてやっていたころには、ずいぶん死んだセッションをしていたなと思います。

人間は生き物ですから、一日違つてもずいぶん違う。その日どういう表情をして入って来られたか、どんな気をただよわせているのか、第一声はどんな感じに聞こえるか、どんなことから語られ始めるのか、毎回毎回それはとても違います。そして、はじめの数分の中にその日のセッションの総目次が

現れているのだという大切なことに、ある時やつと私も気付いたのです。その時に、自分の頭が何かの考えで一ぱいだったら、大切な⑥兆候を見落としてしまつて、セッションはどんどんズレていってしまうのです。

ピーター・ブルックも白紙の状態からはじめる重要性をこのように述べていますが、まさしく⑦「これが、新鮮な経験をもたらす（生きているもの）」の大前提なのです。

※マニユアル：使い方の説明書。物事のやり方手順などをわかりやすくまとめて示したもの。

セラピー：治療。

セッション：問題解決のための対話。

セラピスト：治療を行う人。

クライアント：相談者。

問1 線abcのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 線①とありますが、「この視点」を持つことで、どのようになりますか。二十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問3 「生きているもの・死んでいるもの」の詩の形式を次から選び、記号で答えなさい。

ア 口語自由詩 イ 口語定型詩 ウ 文語自由詩 エ 文語定型詩

問4 線②はどのような思いを表していますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 違いを明確にするなんて不可能だ。

イ 違いを見きわめるのはむずかしい。

ウ 違いなんてごくわずかなものだ。

エ 違いをどうしてもつきとめたい。

問5 線③と対照的なものは何ですか。ここより前の文中から一字で抜き出しなさい。

問6 線④とありますが、筆者は「生きているもの」(死んでいるもの)について、それぞれの

ように考えていますか。解答らんにあてはまるように、文中のことばを使って説明しなさい。

問7 線⑤・⑥はどのような意味で使われていますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

⑤「はからい」

ア 処置

⑥「兆候」

ア 性質

イ 手段

ウ 仮説

エ 計画

イ 原因

ウ 前ぶれ

エ 始まり

ア 線⑦とありますが、「新鮮な経験をもたらす（生きているもの）」の大前提」とは何ですか。

比ゆを使っていない部分を、十字以内で抜き出しなさい。

※ には書かないこと

※

一

問 1

A

B

C

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

(1)

から

(2)

気持ち

問 8

問 9

問 10

二

問 1

a

けられ

b

c

問 2

人々は

という()と

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

三

問 1

a

んだ

b

c

てて

問 2

ゝ

問 3

問 4

問 5

問 6

〈生きているもの〉には

〈死んでいるもの〉には

問 7

⑤

⑥

問 8

※

※

※

受験番号

名前